

羅針盤



社会科部 情報活用委員

お寺の役割

社会科部長 内田 幹也

「わあ、まるで旅館みたい」。

昨年度の「授業力アップセミナー基礎編」で崇福寺（中島町）を訪れた時のことです。本堂で住職と野本欽也先生（岡崎むかし館主任専門員）の話をうかがった後、西尾軽便鉄道の時刻表が貼ってあるという庫裏の玄関へ移動しました。そのとき発せられた若い女性の先生の声です。その先生は、崇福寺庫裏の玄関が旅館の玄関のように立派に見えたのでしょ。私は、「いいところに気づいたな」と思いました。

中世以来、お寺は葬祭や布教の場だけではなく、いろいろな機能を持つようになりました。城や砦、学校（寺子屋）、公民館（集会場）などの役割です。江戸時代になると、檀家制度（寺請制度）によって行政機関の権限を与えられるようになり、今で言う市町村役場の機能を持つようにもなりました。（このあたりのことは、社会科の先生には釈迦に説法ですね。）

ところで皆さんは、寺院が役人の旅宿の役割も果たしていたことをご存知でしょうか。私がそのことを知ったのは、大学時代の恩師が書かれた研究紀要「林鶴梁日記（二）—文人代官の支配地巡検—」を読んでからのことです。この論文のなかに、我が家の隣にあり、檀那寺でもある松明院（細川町）の記述がありました。林鶴梁という人物は、幕末の幕臣で遠州・三河の幕府領を支配した遠州中泉（静岡県磐田市）代官です。この人が支配地である遠州・三河の幕府領を約二十日間かけて見回っていく様子が書かれています。その宿泊場所の多くが、寺院や村の有力者の屋敷です。幕末のこの時期、街道沿いには本陣や旅籠などの専門の宿泊施設がありますが、街道を外れた田舎に宿泊施設などないのが当然です。そこで、役人などの有力者が泊まるのは必然的に寺院や村の有力者の屋敷となったのでしょ。

さて、本年度の「授業力アップセミナー基礎編」は、「滝山寺を中心としたフィールドワーク」と「滝山寺の歴史と風土の講義」を行います。今年もどんな発見があるか、とても楽しみです。

<松明院>



三十三観音と総門



土塀の銃眼

平成26年度授業力アップセミナー【基礎編】情報

今年度の「授業力アップセミナー【基礎編】」は、以下のような内容・日程で計画しています。

- | | | | |
|---|------|-----------------------------|-----------------------------|
| ① | 日時 | 平成26年7月31日（木） | 9:00~15:30 |
| ② | 場所 | 滝山寺周辺・岡崎中央図書館「りぶら」 | |
| ③ | 研修内容 | 研修1 | 「滝山寺周辺のフィールドワーク」（駐車場：常磐小学校） |
| | | | 滝山寺、宝物殿、ガラ紡工場遺跡等 |
| | | <講師> | 岡崎むかし館主任専門員 野本欽也先生 |
| | 研修2 | 「滝山寺の歴史と風土」（会場：りぶら301・302号） | |
| | <講師> | 岡崎むかし館主任専門員 野本欽也先生 | |



三教研夏季研修会情報

1 テーマ

「社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、
仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業」(2年次)

2 期日 平成26年8月8日(金) 12:40~16:30

3 会場 岡崎市民会館(全体会・講演会、分科会)

※ 講演内容など、予定が決まり次第、案内を送付させていただきます。本年度、岡崎からは杉山 彩 先生(岩津中)、山本磨生 先生(矢作中・前根石小)の提案があります。多くの先生方のご参加をよろしくお願ひします。

(三教研担当 甲山中 後藤真司 男川小 鈴木巨裕)

平成26年度社会科部の組織(敬称略)

部長	中根俊忠(六ツ美中陪小) 内田幹也(六名小) 平岩和博(額田中) 内田尚之(常磐東小)			
指導員	中西 勉(男川小) 竹平真仁(小豆坂小)			
世話係	鈴木巨裕(男川小) 後藤真司(甲山中)	長谷川威全(羽根小) 山崎章白(城北中)	高瀬 透(北埜小) 酒井智之(竜海中)	木村充隆(矢作西小) 中根良輔(翔南中)
専委員会 正副委員長	基礎研修	委員長 新美 聡(矢作北中)	副委員長	米澤篤司(緑丘小)
	授業研究(小)	委員長 前田康幸(井田小)	副委員長	原田康成(岩津小)
	授業研究(中)	委員長 伴 巨裕(河合中)	副委員長	早川哲也(額田中)
	研究作品	委員長 平川 誠(大樹寺小)	副委員長	加藤周司(矢作東小)
	情報活用	委員長 森田淳一(竜南中)	副委員長	榊原隼博(六ツ美南陪小)

平成26年度社会科部新任紹介

田中章太郎(六名小) 中川舞子(広幡小) 山本順正(井田小) 片岡悠介(藤川小)
藤淵俊旭(矢作北小) 相馬月子(矢作南小) 後藤有貴(大門小)

～ 新しい7名の先生方の今後の活躍に期待しています!! ～

ちよつと寄り道

二十七曲り(根石学区)

二十七曲りとは、岡崎城主の田中吉正が10年かかって造り上げたと言われ、道を何か所も曲げることによって、敵の侵入を防ぐ役割がありました。根石学区には、二十七曲りの出発地点があり、二十七曲りがどのように市内を通っていたのか示された石碑と大きな冠木門が建っています。



冠木門を探検中



戦火も逃れた常夜灯

冠木門から金のわらじ案内柱を目印に歩いて行くと、二十七曲り記念の石碑や、江戸時代から残る常夜灯などに会うことができます。

3年生総合学習で、「根石の昔調べ」を行い、子供たちと一緒に二十七曲りを歩きました。多くの子供たちは、「本当に二十七か所も曲がっているのか?」という点に興味をもっていました。

興味がある方は、ぜひ歩いてみてください。手軽なウォーキングコースにもなっています。

(根石小 鬼頭智恵)

平成26年度 夏休み 社会科自由研究 についてのお知らせ

○「岡崎むかし館体験講座・社会科研究学習相談会」について

- ・期 日 : 7月26日(土) ・ 27日(日)
 - ・時 間 : ①10:00~11:30 ②13:30~15:00
 - ・場 所 : 岡崎むかし館(りぶら1階)
 - ・講 師 : 野本欽也先生(主任専門員)
- ※ 参加希望者は、上記の時間帯に岡崎むかし館に来てください。
申し込みなどの必要はありません。



ただし学習相談については、終了時刻の30分前までに来てください。

○夏休み 社会科研究作品づくり について

- ・作品の内容 : 社会科学習または社会科の発展学習、
おかしき学習(岡崎の心の醸成につなげる郷土学習)に関するもの
- ・作品の体裁 : 学校で配付される自由研究用の模造紙(2枚以内)、
ノート、ファイル、スケッチブック、ルーズリーフなど
- ・作品の書き方 : 模造紙、ノートの書き方見本を参考にする

ルーズリーフはバイ
ンダに綴じて、表紙
を付けること。

(必ずテーマ・学校名・学年・名前を、最初に記入する)

こんな作品づくりをめざそう!

- ① 今までだれも取り組んでいないテーマである
- ② 自分の足で歩いて調べ、自分の目で確かめてある
- ③ ねばり強く調べて、たくさんの資料が集めてある
- ④ 学区や岡崎市に関係するテーマや調べがある
- ⑤ 調べたことを比べたりつなげたりして、考えがまとめている
- ⑥ 調べたこと確かさを基にして、自分の考えがまとめている
- ⑦ 世の中の課題やこれからの社会のあり方について、自分の見方や提案が示している
- ⑧ 自分の強い思いや願いが表れている



(これまでの優秀作品例)

- 小3年 ・三島学区の小字名の由来調べ
- 小4年 ・小豆坂小学校 校歌のナゾ
- 小5年 ・わたしの家の米作り
- 小6年 ・岡崎を豊かにした三河木綿
- 中1年 ・我が家の地震対策

※研究を通して「今」、そして、「これから」
を見るという視点を大切にしましょう。

○社会科研究作品展 研究作品発表会 について

- ・展示期間 : 10月4日(土) 10:00 ~ 10月14日(火) 17:00
 - ・展示場所 : りぶら2階の総合案内前の通路
- ※ 小中学校児童生徒の優秀な作品を展示紹介します。
※ 展示された優秀な作品には、賞状・トロフィーが授与されます。
※ 研究作品発表会を次の通り実施します。

日 時 : 10月11日(土) 10:00~11:30

場 所 : りぶら1F・103号室(岡崎むかし館のとなり)



「おかざき学習」実践報告

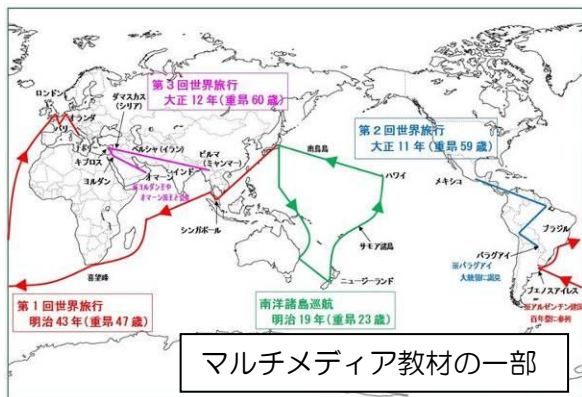
本年度の1学期も、市内の各中学校で「おかざき学習」の実践が行われました。「指導の手引き」の内容に工夫を加え、意欲的に実践に取り組まれた学校もあります。

ここでは、そうした独自の取組が行われた2校の実践を紹介します。

【額田中学校】〈1年生〉「歴史のオリエンテーション」の実践

中学校に入学し、「岡崎の偉人たち」を学ぶことから、歴史学習は始まった。

はじめに、郷土読本「岡崎」(P1、2)を使って、4人の偉人について学習した。「徳川家康」はほぼ全員が知っていたが、他の3人の偉人の名前は、ほとんどの生徒が知らなかった。そこで、本多光太郎、志賀重昂、石田茂作の名前を紹介し、家康も含めた4人の偉人について調べ学習に取り組んだ。初めて知ること多いため、子どもたちは一生懸命調べ学習に取り組んだ。調べた内容を発表させると、知らなかったことを次から次へと知る喜びを感じながら、聞いている生徒が多かった。



マルチメディア教材の一部

その後、「おかざき映像教材研究会」が制作した自作マルチメディア教材「岡崎の偉人たち」を使いながら、3人の偉人の功績についてまとめた。志賀重昂が世界旅行へ行った国やその行程を紹介したり、石田茂作が証明した「法隆寺再建説」についての解説ビデオを見たりして、学習を深めることができた。

生徒の感想からは、歴史上の偉人の功績を知ることができた喜びや、これから学ぶ人物についてもっと知りたいという意欲を感じることができた。岡崎出身の偉人の功績について学んだことで、今後の歴史学習への期待を高めた生徒が多かった。

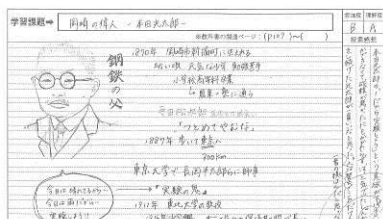
なお、マルチメディア教材の活用法については、昨年度配付された「視聴覚教材・機器利用の手引き第18集」のP120～128に掲載されているので、ぜひ参考にしてください。

(鈴木 広樹)

～生徒の感想～

・授業で学んだ人たちは、私が知らない人たちがほとんどで、その人たちのことについて、細かいことまで知れたのでよかったです。今度は知らない人たちのことをもっともっと知りたいです。

【竜南中学校】〈3年生〉「岡崎の偉人 ～志賀・石田・本多の三人から学ぶ～」の実践



似顔絵とノート

3年に進級し、私自身が初めて受け持つ生徒に対して、初めての社会の授業ということで、社会科と岡崎(と私)に対して親しみを持つことができるようにすることをめざし、本実践に取り組んだ。

まずは、郷土読本「岡崎」を用いて三人の偉人について学びを進めた。この際に工夫した点は、人物に親しみをもち、人となりを想像することができるようにするために、①似顔絵を作成 ②地図で出身地を確認(google earthを利用) ③ミニ討論ができる論題提示 の三点である。

論題については、特に難しいものを設定するわけではなく、例えば、本多光太郎の学習の際には、「あなたならできる?本多光太郎の生活」と題し、郷土読本で読み取った光太郎の生活に対して、自分なりの見解を考えることができるようにした。

これらの学びによって、三人の偉人に対して親しみを覚えた後に、「岡崎カルタンプ」づくりを行った。「カルタ」と「トランプ」を組み合わせ、三人の人物から連想する「読み札」や「取札兼トランプ」を作成した。どの生徒も、友人と相談をしながら楽しんで作成を進めることができた様子であった。



岡崎カルタンプ

(森田 淳一)